

### 第3回守山市都市計画マスタープラン策定検討委員会 意見への対応

着色のものは、検討委員会における回答内容

#### 1 市民アンケート結果について

項目	意見の内容	発言者	対応
アンケート結果からの課題抽出	アンケート調査の目的が地域別構想に反映するとなっている。全市を捉えて、調査結果で満足度が低く、重要度が高い公共交通など、全市の課題で、地域別構想に反映するだけではなく、全体構想に反映することもある。結果の報告から、どういう課題を導き出すのか、整理があった方が良い。	横山委員	資料に「地域別構想に」とあるが、全体構想に反映する内容もあるので、書き方が適切でなかった。詳しい分析をして、地域別構想に反映する部分と全体構想に反映する部分とを示したい。 ➡P24、25にアンケート結果と全体での課題を整理
	全体構想の中でも、このアンケートから守山市の利点・課題の整理ができる。	岡井委員長	➡P57（南部）、P66（北部）、P72（田園）地域別の結果を整理
優先順位付けの指標	アンケートの結果は、なぜその数字が出たのかの深掘りが必要だ。マスタープランでやることが競合することの優先順位付けの指標に使ってもいいのではないか。	石川委員	【岡井委員長】優先順位は、場所によることもある。地域別の自治会ごとは、回答数が少なく、はっきりしたことは言えないが、そのあたりを見て判断してはどうか。
地域別で差がある項目	公共交通のことで道路整備に関して、重要で満足している「②買い物、通勤・通学など日常生活」に違和感を持った。南部・中部・北部の地域別を見ると、中部と北部は南部に比べて満足度が低い。地域によって重要で満足と認識していても、差がある項目がありそうなので、丁寧に見ていく必要がある。特に②と⑦と⑨の交通・移動に関する関係性は気になった。	大庭委員	交通は、どの地域でも厳しい結果となった。現在守山市地域公共交通活性化協議会で検討している。 【岡井委員長】詳細は、地域公共交通活性化計画でつくり、都市マスでは、公共交通についてこういった方針で検討しているということを入れないといけない。

#### 2 守山市都市計画マスタープラン全体構想案について

項目	意見の内容	発言者	対応
都市マス全体の考え方	都市マスの全体の考え方が述べられている部分だが、市が今後10年間その先の将来に向けてどのような思いでまちづくりをしていきたいのか、メッセージが伝わってこない。サステナブルの考え方の話をきちんと書き込むことが必要ではないか。前提となる課題があいまいなままで理念・目標を決めている。課題と正面から向き合って、今後10年間でどういう問題が生じようとしているか、「複合的で複雑化する課題」とは何かを整理した方が良い。	横山委員	今の守山市のスタンスは、長期ビジョンで大きな方向性を定めて、各政策の中身は、分野別計画でそれぞれ長期ビジョンの大きな考え方に基づいて、個別の政策は、個別で定めて推進していく建付けになっている。長期ビジョンに「まちづくりの姿勢」の記載があったとしても、都市マスにおいても書くかどうか検討する。 ➡P4に「3 策定の背景と考え方」を記載
	大きな理念の基本的な考え方、大元となる考え方は、長期ビジョンでは基本構想の前に「まちづくりの姿勢」の一項目設けて、「今が時代の転換点であることを認識しサステナブルなまちづくりを進める」と文章を	横山委員	

項目	意見の内容	発言者	対応
	書いている。同じように、まちづくりに対して、守山市としてはこういう思いでこう取り組んでいくということを、もう少し具体的に書いた方が良い。		
まちづくりの理念	共通目標①「人口減少を見据えた持続可能なまちづくり」の目標を掲げているが、まちづくり理念図は「サステナブル」のままですべて一致していない。	大庭委員	図が修正できていなかったもので、「持続可能な」に修正する。
緩やかな人口増加を継続する目標人口を設定	都市計画の目標で、共通目標①の「緩やかな人口増加を継続する目標人口を設定」は長期ビジョンのとおりだが、それだけで済ませてよいのか疑問がある。長期ビジョンで確かに2035年まで緩やかな人口増加となっているが、内訳は、高齢人口が増加するだけで、生産年齢人口は、実数では2030年でピークを迎え、その後は減少に転じる推計だ。高齢人口は、今後30年くらい増え続けて、実数では2055年にピークを迎え、その後減少する推計である。単に「今後10年間緩やかに人口増加」だけでは、問題があいまいになる。その先にある人口減少が既に中身として始まっているという問題意識を持つ必要がある。	横山委員	人口構成について、生産年齢人口の比率を下げないようにすることは、市としても同様に考えている。 どのように記載するか検討する。 ➡P12、13「(2)人口の推移と少子高齢化の進行」で記載 ➡P28課題の「土地利用」で記載
地域課題の複合化・複雑化	「地域課題も複合化・複雑化し、市民一人一人のニーズや価値観も多様化しています」とあり、これに対して「市民と行政が課題を共有し、解決に向けて共に取り組むことが不可欠となっています」と記載されている。確かにこのとおりだが、地域課題が複合化・複雑化してことについて、実際に何が課題で複合的に生じて複雑になっているのかがあいまいになっていて、市民との協働で玉虫色に濁している気がする。	横山委員	➡P33都市づくりの目標の中で、自然災害の変化、市民の多様化等のそれぞれ起こっていることを明記して目指す内容を記載 地域別構想P59（南部）、P68（北部）、P74（田園）の課題で整理
	地域の課題が複合化し、複雑化していることについて、資料3 P3の自治会別高齢化率変化の図がわかりやすい資料だと思う。P3図の▲印が平成2年以前に開発した住宅地やマンションであるが、高齢化率の変化だけでなく人口の変化をつけた方が良いと思う。▲印のそれぞれの自治会の人口を見てみたが、平成27年から令和7年については8割9割が減少している。要するにこういう場所では、できた当時4人家族であったが、子供が出て行って、2人家族になって、高齢化が進んでいる状況がある。昔の住宅地では人口も減少している状況が既に起こっている。単独で自治会を形成している所がこのように数字で押さえられるだけで、高度経済成長期には、ほかにもいろんな場所に開発地があり、同じような問題	横山委員	➡P14「⑤自治会レベルの人口推移」図9自治会別高齢化率変化と人口変化(平成27年→令和7年)を追加

項目	意見の内容	発言者	対応
	が市内で起こっているはずだ。 人口が減少し、高齢化が急激に進んでいる地区は、都市開発だけではなく、コミュニティの維持や高齢化に伴う健康管理や安否の確認、福祉の問題など、そういうことが同時多発的に起こっている。地域課題が複合化し複雑化するとは、まさにそういうことではないかと思っている。		
豊かな田園都市	「豊かな田園都市」を目指すは、第5次守山市総合計画の将来ビジョンとして「豊かな田園都市」と書いているが、2020年の未来懇談会の提言だと思うので、何か表現が違うような気がする。 「豊かな田園都市」の将来イメージは、非常にあいまいなまま進んでいるような気がする。私自身の感覚では、現在既に豊かな田園都市ではないかと思う。50年後に目指す「豊かな田園都市」が何なのかあいまいなまま済ませている。具体的に何を改善すれば、目標とする姿「豊かな田園都市」になるのか。この計画は10年間なので、10年後の目標が示されていない。理念としては、「縮小してもゆとりがあるまち」なのかと思う。	横山委員	今の「豊かな田園都市」を守っていくためにもと考えている。そのために、守る部分は守り、攻めていくところは攻める、様々な方策をやっていかないといけないと長期ビジョンで書かれている。都市マスでは、守るべき農地と自然を残しつつ、エリアを決めて必要な土地利用を進めていくことで、今のところをうまく守っていく。書かれていない部分は、 <u>表現を検討する</u> 。 ➡P31「1都市づくりの理念」を「活力ある都市空間と良好な自然環境が調和した豊かな田園都市」と設定 P33都市計画の目標を達成するために「守山市版コンパクト・プラス・ネットワーク」、を掲げるとともに、目指す環境で「自然の恵みを活かす～」を設定
守山市が目指すコンパクトシティ	共通目標①に「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考え方が、立地適正化で市街化区域を居住誘導区域にすることは全国の方針だが、守山市は一方で既存集落型地区計画を積極的に進めて、それによって調整区域の集落でも人口維持を図っている。そういう守山市版のコンパクトシティを具体的に方針として持った方がいい。言葉だけが「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考え方の都市づくりを目指し」となっていて、それを受けるそれぞれが、あいまいなままだ。もっと守山市としてはこういうコンパクトシティを目指すということをや、方針としてちゃんと持った方が分かりやすい。	横山委員	守山市版コンパクトシティは、そのとおりだ。一般的にコンパクトシティは、まちに機能を集約していくことだが、守山市は市域が狭いので、既存集落を維持していく方向で考えている。結果として、守山市版になっているが、一般的なように市街化区域に集約するだけでなく、それをしながら既存集落も維持していくことを自然にやってきた。それが表現されていない部分があるので、守山市版のコンパクトシティが伝わらない。 <u>記載方法を検討する</u> 。 ➡P18「コラム：既存集落型地区計画」掲載 ➡P32「守山市版のコンパクトシティ」を目標に記載
都市計画の目標と土地利用の方針	目標を達成するための手段と目標は整合が取れているのか。具体性がないのでよく分からない。例えば、北部地域は、スーパーがない、土地利用の方針で、商業施設が具	石川委員	【岡井委員長】不便なのでどこでも商業施設を作るという話にはならない。「都市機能の拠点」では、都市拠点・都市軸をどこに置か

項目	意見の内容	発言者	対応
	体的に何か見えない。土地利用構造図を見ても、北部地域は、バスは赤字路線だと思うし、ネットワークになっていない気がする。拠点になりそうな所がない。		の大前提の話だ。都市機能の拠点は、都市構造図では、北部では観光・レクリエーション拠点、地域生活拠点がある。加えてオレンジ色で示されている小さな拠点で、最低限のものが買えるような店舗の配置が考えられる場所として位置付けている。
都市機能の拠点について	都市構造図では都市拠点と3つが丸で囲まれている。都市拠点と幅広く書かれているが、普通は広いので中心市街地ゾーンの設定なのではないか。田園生活拠点は、都市構造図では色が変わっているのでは違う位置付けだと思うが、説明では同じように書かれていて違和感を覚える。田園生活拠点は、都市拠点・地域拠点の2段階では、地域拠点の小さな拠点だと思う。都市拠点も4つの中で、中心市街地ゾーンと文化スポーツ・レクリエーションゾーン、地域生活拠点の名前が今一つだが3つの拠点があるのか。拠点の中でも役割をもう一度チェックした方がよい。	岡井委員長	<p>➡P34～P36「将来都市構造」を修正 都市拠点の範囲を立地適正化計画の都市機能誘導区域に修正 田園生活拠点の位置付けを修正（都市機能の拠点としての役割がないため）</p>
	都市拠点が広すぎるので、それをどう考えるか検討してもらいたい。	松島副委員長	
都市構造図	都市構造図はいつを目標にしているかがよくわからない。そもそもこの都市マスは10年後の目標づくりなので、都市構造図は10年後を目標にすると解釈できるが、都市構造図にある主要道路軸は、とても10年ではできるとは思えない。	横山委員	都市構造図は基本的に10年間の期間で記載するものと考えている。 ➡P36「都市構造図」を修正 今後10年間で整備される見込みがないものを削除
	10年間で目標とする区間、さらに将来に予定している計画区間などの区分を設ける必要があるのではないか。どの区間を目標にするのか、凡例で色を分ける必要があると思う。	横山委員	10年間整備予定、それ以降整備予定で凡例ができるかは検討する。 ➡P42「将来道路網図」において凡例で区分
主要道路軸	主要道路軸の説明では、「守山市まちづくり市道整備計画」に基づく主要7路線となっているが、都市計画道路に該当しない路線が含まれるのはなぜか。都市マスの中で都市計画道路でなくなぜこの7路線なのか疑問である。	横山委員	都市計画道路には、都市計画決定はしているものの、長期未着手の道路もいくつかあり、その中には今の集落内を走っている都市計画道路もある。これはあくまでも都市の構造図なので、市として今のところ整備する予定のない都市計画道路は、構造図には記載すべきではないと考えているので、一部都市計画道路については記載していない。 ➡P42「将来道路網図」を修正
	例えば、野洲川幹線の野洲川に沿う部分は、川田町の住宅や旭化成の工場の中を突っ切るような線形になっている。都市計画道	横山委員	主要道路軸は、基本は市道整備計画に基づくもので、現在計画を見直している。最新の市道整備計画

項目	意見の内容	発言者	対応
	路は、これと線形が違うような気がするが、実際にこの計画は進むのか。		は今年度中に策定されるので、 <u>いったん示しているが場合によっては修正する。</u> ➡P42「将来道路網図」を修正
土地利用 構想図	土地利用構想図で、現状の用途地域から変わっている所は丁寧な説明がある。これまでの方針から変えるという部分は、それが現状の追認であったとしても（都市拠点の中だと思うので）そこについては丁寧な説明があって、それによって都市計画の目標にどう活かしていくのかを書く方が良い。	松島副委員長	➡P37～P40「土地利用の方針」 「商業系、住宅系、工業、田園等の各エリアと、守山市の特徴を引き出すゾーンを設定して土地利用を図る」と考え方を記載  笠原産業用地の区域を工業エリアに変更 市民運動公園ともしやまエコパークを公共公益施設ゾーンに変更
	現状維持の所は良いが、変更するのであれば、こういうエリアで今後はこうなるからこういう方向で変更し、土地利用を目指すという書きぶりになると思う。変更する所は、丁寧に書いてもらいたい。	岡井委員長	
	公共公益施設用地として、運動公園等が青色になっているが、用途地域をベースにつくられるからだと思うが、県立病院、市立病院、図書館等がある所は、住宅地の中低層地域の黄色になっていて、公共公益施設が集積しているのにもかかわらず住宅になっているが、なぜかわからない。	横山委員	特別用途地区により制限しているためである。
	笠原産業用地が示されているが、範囲が広く2倍くらいある。今後もう少し拡大する意図があるように見えてしまうので範囲を確認されたい。	横山委員	意図はないが、少し大きいので修正する。 ➡P40「土地利用構想図」を修正
都市施設 整備等の方針	資料3 P9「近年、下水道施設の老朽化による事故が全国的に発生しており、緊急性の高い施設の耐震化についての対応が必要となっています」とあるが、下水道施設だけではなく、上水道も橋梁も、インパクトのある事故は下水道だが、問題になっているのは、様々な公共施設、学校も含めて、この課題だと特定してしまっていて、方針に公共施設、上下水道、道路、橋梁等の老朽化に対する対策が示されていない。長期ビジョンには、都市基盤でインフラの老朽化対策が明記されているので、それをもっと具体的に書く必要がある。	横山委員	➡P9市を取り巻く時代の潮流の「持続可能なまちづくり」、P28守山市の課題で、インフラの老朽化対策の必要性を記載
	長期ビジョンの関連では、都市基盤の中に都市計画制度の見直しがかかれているが、今回の方針の中には触れられていない。整合を図った方がいい。	横山委員	➡区域区分や地区計画のガイドラインの見直しを検討している。
	①道路「狭い道路の解消を推進します」は、理由が書いてあるが、「推進」の書き方がどの程度かわからないが、全ての狭い道路を解消するのは違うと思うので、書き方を変えたほうが良いと思う。生活道路で狭ければ車の抜け道には使われない。歩行	石川委員	【岡井委員長】必要に応じてということ。 ➡「必要に応じて」を追記

項目	意見の内容	発言者	対応
	空間の確保にもなる。道路が狭いと家と家が近く、交流が盛んになる面もある。防災機能・避難機能は、もちろん必要だが、道路の属性によって狭い道路を解消するか判断するという書きぶりの方がいいと思う。		
土地利用の方針の具体的記載	守山では中山道やホタルは特別だと思っている。中山道は、マンションが結構建っているが、特別な所は具体的に絵で表現し、こういうことはしてはいけないとかは方針で書いた方がよいと思う。	石川委員	➡景観については「守山市景観計画」で示されている。都市マスでは基本方針のみを記述する。
景観形成の方針	中山道が現状守られている感じがしないので、ここはもっと具体的に書いてほしい。	石川委員	【岡井委員長】歴史的な地区の保全は、景観形成方針に書いている。中山道を保全することは書くべきで、これに基づいて、景観計画で具体的なことを書くことになる。ただし、もう少し書いてもいいかもしれない。 ➡保全の方向性は記載しており、詳細は、景観計画で対応する。
自然環境と共生の方針	ホタルがいる川が最近ホタルの蛹から成虫になる場所が宅地になった。例えば、ホタルがいる所に工業地がかぶっていたという時には、どうなるのか。	石川委員	【岡井委員長】ホタルのことは、これが都市空間フィジカル・プランとなり、これに基づき整備されることになる。 【事務局】ホタルについては、守山市環境基本計画やホタルのいる河川を守るための「守山市ほたる条例」等もあるので、そこに細かく書いている。都市マスでは少し触れて、細かい部分はそこにつなぐ。各分野別計画とのつながりのイメージだが、分かりにくいところもあり、どこまで書くか検討する。 ➡P54でホタルが生息しやすい環境づくりやホタル護岸の整備等に触れている。
施策の優先順位について	優先順位の決定は、都市計画内で行われるものか。または、上位計画で行われるものか。	石川委員	【岡井委員長】総合計画でも書くが、さらに具体的な中身は都市マスでも書く。
	どういふものを優先するかは都市マスで書くが、今は何を優先するかが見えにくいところがある。 まちづくりの理念の大きいところで書かれるべき。歴史的な街並みをしっかりと保存するとか、10年後以降は人口減少するので、工場地を増やさない方針ならば、ホタルの生息地を優先的にするというような、そういうことを優先していくことが理念として現れると、守山市らしいビジョンになる。	岡井委員長	➡P31「都市づくりの理念」で調和する理念を設定

項目	意見の内容	発言者	対応
自転車走行空間に関して	自転車走行空間は、これがなぜ出てきたのかわからなかった。特別に書くのであれば、歩行者や通学路の方ではないかと思うが、自転車走行空間が重要視されている理由を教えてください。	石川委員	【岡井委員長】守山市は、サイクルロードが充実していて、ピワイチを含めて、自転車空間がサイクリストにとって快適なまちを以前から目指されていて、それが評価されているので、その観点で書いている。守山市は、自転車を推進しているのが特徴である。
	絵があると良い。どういう自転車空間なのかを、もう少し具体的に書いてもらえるといい。	石川委員	従来から自転車についても書いており、自転車活用推進計画もあるので、そこに細かく書いている。
	自転車について、せっかく守山市は頑張っているのに、守山市の自転車施策について少し解説する記述があると、自転車走行空間を掲載している意味があるのでは。市内で自転車が使いやすいまちにするためのメッセージがわかるようにしてもらいたい。	岡井委員長	➡P44「自転車走行空間」として特別に項目を立てて、文章中で「基本方針「自転車ライフを支える空間づくり」に基づき～」として、位置付けと図を掲載してメッセージを表現している。
	P15公共交通で自転車駐輪場(BTS)とあるが、分からにくい。調べたところ、Bicycle Transit Stationの略のようだが、あまり一般的ではない。守山市では使われているが、ほかではあまり使われていないようである。市民が理解しているなら構わないが。	大庭委員	自転車駐輪場(BTS)は、Bicycle Transit Stationの略で、自転車でバス停まで来て、そこに自転車を置いて、バスに乗り換えができる、駐輪場というよりは自転車乗換場のこと。表現を修正する。
市民に分かりやすい計画	市民が分かりやすいように、もう少し具体例があった方がいい。土地利用は、具体的にこういうことをしていくと記載したほうが、市民には読みやすくなると思う。	石川委員	アンケートでの「わからない」という評価は、書いている意味がわからないということが場合によってはあるかもしれない。「圧送管二条化」も含め、全体的に市民に理解しやすい表現になっているかを点検する。
	アンケートで都市マスを知らないという意見が多かった。計画が読みにくい、判読しにくいこともあるのではないかと。参照すれば分かるのかもしれないが、1枚である程度分かるようにするのは、市民参画を考えると重要ではないかと思う。	石川委員	
	P24上水道・下水道で「圧送管二条化の整備」は専門用語で、市民の方々が理解できるのか。基本的には市民向けだと思うので、かみ砕いた言葉、一般的な文言にした方がよい。	大庭委員	

### 3 地域別構想の課題について

項目	意見の内容	発言者	対応
自治会の活動	自治会の活動は、都市計画の範囲内か。	石川委員	【岡井委員長】自治会の活動そのものは、都市計画マスタープランの範囲ではない。
都市計画マスタープランの推進方策	担い手という点では大事なので、フィジカル・プランで整備をすることで解決するものではないので、今後の「都市計画マスタープランの推進方策」で書かれる内容になる。これまで行政が整備をする話だったが、今後はソフトの対策が重要なので、まち	岡井委員長	全てが都市マスで解決できることではないが、何らかの方策は都市マスに書くことになる。 ➡P79「1 推進体制(1)市民・事業者・行政の「協働」による都市づくり」を記載

項目	意見の内容	発言者	対応
	<p>づくりの担い手は、行政だけではなく、住民の力を借りなければならない。住民組織の自治会の機能が失われることは課題となるので、そこをどのようにして担い手を確保していくかは、提案とともに書かれると思う。次回は、コミュニティ維持方策も検討することになる</p>		
	<p>地域課題の複合化・複雑化とどう向き合うかは、都市計画だけで対処できる問題ではないことをきちんと書きこむことがまず必要だと思う。それをどうするかということが、最後の章になる。今後どうするか、都市マスの中で解決できない課題への向き合い方は、「組織横断的に共通認識を持って対応策を検討していきます」という姿勢が必要だと思う。</p>	横山委員	<p>➡P80「1 推進体制(3)複合化・複雑化する課題への対応」を記載</p>